



エチオピア南西部に暮らすハマル族の男にとって、「ウクリ」と呼ばれる成人儀礼はとても大切なものである。なぜなら、ウクリを経験しないと、彼らの社会では結婚することも許されず、またウシを扱う一人前の男とも見なされないからだ。

雑穀の収穫が終わる10月ごろ、河川敷近くの広場に集まった男たちは顔にペインティングを施したり、頭に鳥の羽を飾ったりして正装する。ウクリを受ける新成人の親族の女性たちはむちを打たれ、おなかや背中には無数のみみず腫れができる。男が社会に出るといふことは、それを支える女たちにとっても名誉であり、同時に今後のさまざまな受難にも耐えていくという意味が込められているのだから。

ただならぬ気配を察したウシたちは逃げようとするが、男たちの手によって並ばされる。その上を、全裸になった新成人は一気に跳躍し、向こうまで渡り切る。それを二往復繰り返して終了。成人になるには年齢は関係ない。その人物が社会を支えられるかどうか問われる点だという。

春

夏

秋

冬

13

ウクリ

ウシを跳び越えて 大人になる



エチオピア
ETHIOPIA

文・写真＝船尾 修

1960年兵庫県出身。アジア・アフリカをフィールドに「地球と人間の関係性」に関する写真作品を制作している。「カミサマホトケサマ」で第9回さがみはら写真新人奨励賞受賞。